

令和 6 年 6 月 23 日現在

機関番号：33903

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02768

研究課題名（和文）地域における社会ネットワークが学校に及ぼす影響

研究課題名（英文）Influence of social networks in the community on schools

研究代表者

小出 禎子 (KOIDE, TEIKO)

愛知工業大学・工学部・教授

研究者番号：70600211

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、地域情報ネットワークが学校と地域の連携・協働に及ぼす影響と校長による地域情報ネットワークの活用のあり方を校長のリーダーシップの観点から明らかにすることを目的とする。聞き取り調査を開始したところで、新型コロナウイルス感染拡大によって研究は中止せざるを得なかった。そこで、調査対象者を学校関係者に変更し、校長のリーダーシップの観点から調査研究を継続した。その結果、学校と地域の連携から見た校長のリーダーシップの様態と学校と地域をつなぐ校長の行動や考え方をモデル化した。また、そのリーダーシップはサーバント・リーダーシップであることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義としては、学校と地域が連携・協働して魅力ある学校をつくるというビジョンを基に、学校と地域の関係を構築し、信頼関係を結ぶというミッションを達成する校長の戦略を明らかにし、後続研究に対して、校長のリーダーシップの類型化の枠組みを示した点である。社会的意義は、少子高齢化や過疎化、地域活性化が課題である地域の学校づくり、地域づくりの当事者に対する情報提供の点にある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the impact of local information networks on school-community cooperation and collaboration and the use of local information networks by principals from the perspective of principal leadership. When we started the interview survey, the study had to be discontinued due to the spread of the new corona infection. Therefore, the survey target was changed to school personnel, and the research continued from the viewpoint of principal leadership. As a result, we developed a model of the principal's leadership from the perspective of school-community collaboration and the principal's actions and thinking that link the school and the community. It was also found that the leadership was servant leadership.

研究分野：教師教育学

キーワード：学校と地域の連携・協働 校長のリーダーシップ 学校と地域をつなぐ サーバント・リーダーシップ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現在、人口減少、少子高齢化が急速に進行し、また、グローバル化や情報化が急激に進展してきており、学校や地域、家庭を取り巻く状況は厳しさを増してきている。地域では教育力が低下し、活性化が喫緊の課題となっている。学校では課題が多様で複雑なものとなり、学校のみで解決することが困難になってきている。こうした地域課題と学校課題の解決のために、両者が連携・協働することが期待されている。

学校と地域の連携・協働を進めるにあたって、重要な役割を果たすのが校長である。校長の役割は、子どもの豊かな学びを実現するために、いかに地域と連携し、どのような取り組みを行うのかといった教育全体をデザインすること、そして、そのリーダーシップをとることである。しかし、こうした校長のリーダーシップの重要性は認められているが、具体的なリーダーシップの内実について明らかにされているとは言い難い。

また、学校と地域が連携・協働するには、まず校長がデザインした取り組みについて地域に発信し、理解されてはじめて住民から協力が得られる。校長が地域と連携した取り組みをデザインするためには、地域の情報収集も必要となる。したがって、学校と地域の連携を促すには、両者の情報共有をいかに図るかが重要である。しかし、学校の情報収集・発信は、地域との連携においてその必要性や情報内容について多数論じられているが、学校の情報具体的な地域住民に伝達されているネットワークの実態を明らかにしたものはほとんどない。

2. 研究の目的

本研究では個人と個人のつながりにおいて、情報が行き交うネットワークを「地域の情報ネットワーク」と定義する。本研究の目的は、「地域の情報ネットワーク」の実態を解明し、そのネットワークが学校と地域の連携・協働に及ぼす影響を明らかにした上で、校長による地域情報ネットワークの活用のある方を校長のリーダーシップの観点から検討することである。

3. 研究の方法

(1) 研究対象地域

「地域の学校」という意識が強く、学校と地域が連携した取り組みが多い2地域を対象とした。どちらも県の端に位置し、中山間地域である。X地域は、地域が中心となって子どもに地域の歴史や文化、産業を伝える授業を住民自らが行う取り組みを行っており、現在は将来起こるであろう、学校存続問題の対応策を地域主導で検討している。Y地域は、地域存続のために小中併設校を開校し、その学校はコミュニティ・スクールとなった。その後、さらに少子化が進み、児童生徒数も減少した。しかし、少人数であることや小中併設の強みを生かした小中連携教育を行うことで、児童生徒数も増加してきている。ここ数年、町全体で学校統廃合が議論され、この小中併設校は小規模校として存続することが決定した。今後は、学校と地域で小規模校としての学校運営や教育課程の課題などを議論することが予定されている。

(2) 調査方法と分析方法

研究開始当初は、以下のような調査研究を行う予定であった。

地域の組織・グループ・集まりを地域組織と考え、その代表者や市職員に組織の数や目的、活動内容を聞き取りし、地域住民が情報を共有する場や機会を把握する。

地域住民にアンケートや聞き取り調査を行い、地域組織への参加状況や学校からの情報の認知状況を明らかにする。

とで調査した結果に対し、社会ネットワーク分析を行い、地域の情報ネットワークをモデル化し、情報共有の構造や特徴などを明らかにする。

校長や組織代表者、市職員に聞き取り調査し、学校行事や地域行事の数、目的、活動内容を明らかにする。

地域住民にアンケートや聞き取り調査を行い、学校行事や地域行事への参加状況を把握する。

校長が情報収集や発信を行なっている対象組織や住民、それはどのネットワークを活用したのかを校長に聞き取り調査する。

組織代表者や地域住民に、校長や学校からの情報の認知状況と学校への発信状況について聞き取り調査する。

しかし、研究開始の2019年度末から新型コロナの感染拡大により、地域や学校への調査が制限、中止され、地域組織やグループ活動も停止状態となり、学校行事や地域行事が自粛・縮小、中止となったため、調査することが困難となり、地域の情報ネットワークの実態解明は事実上中止せざるを得なかった。感染がおさまるのを待って調査再開を予定したが、新たな感染拡大や学校現場が感染対応で多忙となり、調査を断念する状況となった。

2022年度から少しずつ学校行事が再開してきたY地域に限定し、学校と地域の連携・協働を推進する校長のリーダーシップに焦点を当て、調査対象を校長、元校長、元教頭、地域代表者、

一部の保護者に変更し、聞き取り調査を行った。聞き取り調査は基本的には対面で行ったが、感染のリスクを避けるため、オンラインでも実施した。また、再開した学校行事や地域行事への参加、学校運営協議会に出席することで、具体的に学校と地域が連携・協働している場面の観察を行った。

4. 研究成果

(1) X 地域における調査

NPO 代表者 2 名、地域代表者 1 名への聞き取り調査を行い、学校と地域が関連する会議に出席した。また、地域の教育や活動、学校に関する資料、地域刊行の PR 資料や地域文化に関する資料などを収集した。

(2) Y 地域における調査

2019 年度と 2022 年度以降に実施できた調査は以下のとおりである。

校長 2 名、元校長 2 名、元教頭、地域代表者 3 名、保護者 1 名への聞き取り調査 (ZOOM を含む)

学校行事や地域行事への参加 (2023 年度) 4 回

学校運営協議会への出席 (2023 年度) 1 回

(3) 情報ネットワークとしての多様な議論の場や意思疎通を図る機会

X 地域の歴史的・経済的・文化的背景、地域組織の概要と歴史的変遷、学校設立過程とその後の変遷、現在のむらづくり事業の概要、地域組織数や構造、目的、活動内容など、地域を理解するための重要な基礎的データを収集することができた。また、地域のキーパーソンの学校と地域への関わり方や認識している課題を把握することができたことは次の調査を行う上で大きな意味があった。学校と地域が日常的に連携・協働しているこの X 地域には、住民が議論する場や意思疎通を図る機会が多様に存在していることがわかり、こうした議論場が一つの情報ネットワークであることが示唆された。

さらに調査を進め、直接学校関係者や地域住民に聞き取り調査を行い、具体的な組織の活動内容や学校の情報の流れを解明する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大によって地域活動そのものが停止し、研究期間内に感染前の状況に復活することは困難であると判断したため、研究を中止せざるを得なかった。

(4) 学校と地域の連携からみた校長のリーダーシップの枠組み

Senge 他 (2012) の「Three Nested Systems of Activity」の概念を参考に、X 地域と Y 地域の研究調査データから、学校と地域の連携から見た校長のリーダーシップの様態を 4 つに分類し、モデル化した。学び続ける教師、学習する教室、学習する学校、学習する地域である。モデルからは、学校と地域の組織化が進むほど、校長と地域組織や活動、ヒトとのつながりが多様で密度が高くなり、校長のリーダーシップの影響範囲も広く、影響力も強くなっていくことが読み取れた。また、校長のリーダーシップの様態は、地域の特徴によって、また、同じ地域でも時間とともに変化する地域課題によっても変わるものと考えられる。例えば、少子高齢化で活性化を課題とする地域の場合、十分に組織化が進んでいる地域が教育に関してリーダーシップをとっていれば、校長は学習する学校としてのリーダーシップを発揮すればよいし、地域の組織化が十分進んでおらず、教育に関してリーダーシップをとっていない場合は、校長は学習する地域のリーダーシップを発揮することになることが予測された。また、学習する学校と学習する地域のリーダーシップは、組織の存在意義であるミッションを基軸にしつつ、実現のためのビジョンや戦略、組織構造を環境の変化に適應させることから変革型リーダーシップの要素を持ち、学習する地域は学校も地域も双方が自律的に改革を行うよう成長を促すという意味でサーバント・リーダーシップの要素を持つことが示唆された。

(5) 学校と地域をつなぐ校長のリーダーシップ

計 4 名の校長・元校長への聞き取り調査で得られたデータを基に、校長の学校と地域をつなぐ考え方や行動をパターン化し、校長がビジョンをもとにミッションを達成する戦略を検討した。その結果、校長が学校と地域をつなぐ行動には 4 パターンがあることが明らかになった。学校中心型、地域重点型、学校・地域互惠型、学校地域一体型である。パターン化の類型は、宮前ら (2015) による教師の「地域に向き合う姿勢や態度」の 3 類型を採用し、新たに作成したものである。学校と地域をつなぐことに関して、校長のとりえる戦略が異なる理由は、学校観、地域観、学校の役割などの校長の認識の違いが背景にあるものと考察した。

(6) 学校と地域をつなぐ校長のリーダーシップの特徴

先行研究 (Greenleaf, 1977 など) からサーバント・リーダーシップの定義、特質を整理し、校長への聞き取り調査データを分析したところ、校長の言葉や行動から 傾聴、共感、癒し、概念化などの特質を抽出することができた。したがって、特に の学校地域一体型の校長のリーダーシップはサーバント・リーダーシップであると考察した。

(7) 本研究の残された課題

新型コロナ感染拡大によって当初予定していた地域住民に対する聞き取り調査やアンケート調査はほとんど実施できなかったため、地域情報ネットワークの実態解明には至らなかった。しかし、実施できた聞き取り調査から、の学校地域一体型の校長は、学校運営協議会の議論、会議前後の地域住民との会話や子どもを送り迎えする保護者とのあいさつ、行事に参加している人々との会話などで情報収集や発信を行っており、また、地域住民代表者らと SNS を活用して情報共有を図るなど、必要に応じて新たなネットワークを構築していた。そして、公式の場だけでなく、多様な場や機会を活用して情報収集・発信していることが明らかになった。そこで、今後は活動している地域組織やグループだけでなく、SNS なども含めて地域の情報ネットワークとしてとらえることを考えている。残された課題については、引き続き科研費の取得によって継続していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小出禎子
2. 発表標題 学校と地域の連携からみた校長のリーダーシップ:事例を基礎とした研究枠組みの検討
3. 学会等名 日本教師教育学会第30回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小出禎子
2. 発表標題 学校と地域を「つなぐ」校長のリーダーシップ:ビジョンを基にミッションを達成する戦略
3. 学会等名 中部教育学会第71回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小出禎子
2. 発表標題 多様な家族と子どものニーズに「基づく」校長のリーダーシップ:地域とともにある学校(小中一貫)の事例分析を中心に
3. 学会等名 日本教師教育学会第33回研究大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------